

長谷川 拓郎 先生 さくら矯正歯科クリニック (広島市)

地元での開業とお聞きしました。
大学時代には県外で研鑽を積んだりもしましたが、ゆくゆくは地元で開業し、地域に恩返しをしたいと考えていました。今年で開業12年目を迎えました。
歯科医師を志したきっかけは何ですか？

1995年、広島東洋カープの野村謙二郎選手がトリプルスリー(1シーズンに打率3割・30本塁打・30盗塁以上の成績を記録すること)を達成した際に、ヒーローインタビューで「噛み合わせの治療を受けたことが記録達成の要因じゃないかな」と語りました。この言葉がきっかけとなりました。

最近では、スポーツ歯学という言葉が一般の方にも知られるようになってきましたが、高校生だった私には、歯科医院Ⅱ虫歯を治すところという程度の認識しかなかったので、スポーツ選手のパフォーマンスと歯科治療が関わるとは思いませんでした。大好きな地元球団を支える歯科医療の奥深さに魅せられて、歯学部への進学を決意しました。

診療の際に大切にしていることを教えてください

当院では、「患者本位、EB

M、MI、予防、説明」の5つを理念に掲げ、診療にあたっています。

必要最小限の治療や予防を分かりやすく丁寧に提供することが、口腔内の自然な美しさと

患者さん自身の口腔ケアへのモチベーションを維持するポイントだと思っています。また、EBMを重視する場合でも、全ての症例にマニュアル通り対応するのではなく、患者さんとコミュニケーションを重ね、生活環境などを把握しながら、最適な医療を模索していくNBMMの考え方を常に意識しています。

矯正歯科を主としています。が、審美面と健康面が地続きとなった総合的な歯科医療の提供を重視しています。矯正治療を行った場合でも、その後の生活習慣等が変化すれば、整った歯並びを保つことはできません。研修医時代は、治療終了後に受診しなくなるケースにも接しました。矯正治療を一時的な見た目の改善で終わらせるのではなく、生涯に渡るQOLの向上につなげられるよう、メ

MI: Minimal Intervention
ミニマル・インターベンション、最小限の治療介入
NBMM: Narrative-based medicine
ナラティブベースドメディシン、患者を全人的に把握し、治療方法を考える医療

ンテナンスにも、入念に取り組んでいます。
やりがいを感じることは何ですか？

新興住宅地が近いので、開業当初から家族で通い続けている患者さんも多くあります。小さかったお子さんが進学したと聞くと、わがことのように喜ばしく思い、人の成長の過程に携わる歯科医療の素晴らしさを感じるとともに誇らしく思いました。親子孫3世代に渡って口腔を管理する、そんな地域に根差した歯科医院に成長していくことが目標でもあります。

趣味や休日の過ごし方は？

大学生の頃から自然に触れる旅が好きで、「ドラマ」北の国から」に登場する景色を求めて、自転車で北海道をぐるりと回る旅にも出かけました。ドラマで観た地平線がどこまでも広がる風景は自転車旅行にもってこい...と思いきや、富良野の果てしない登り坂など、スケールの違いにも驚いた旅でした。

最近家族で旅行やキャンプによく出かけています。連休は高知県に足を運び、吉野川の溪流をダイナミックに下るラフティングに挑戦しました。その土地の美味しい特産品を買って帰り、自宅に帰ってから旅行の延長気分を満喫しています。

現在は、いろいろな施設が揃った便利な街に暮らしていますが、たまに「窓を開けたら雄大な自然がひろがる光景」が恋しくなります。この次はどんな自然に触れる旅に行こうかと、計画を立てるのも楽しみのひとつです。

